

# 現代女子学生の不安

大 西 久 男

目	次
1. はじめに	4. 結 果
2. 問題と目的	5. 結論と要約
3. 方 法	参考文献

## 1 はじめに

(1) 現代は「不安の時代」といわれる。大規模な戦争こそ一応遠のいて  
いるものの、世界のあちこちには局地戦や内乱・騒擾跡を絶たず、公害  
問題は市民生活のみならず地球上の全生命をも脅かし、加うるに価値観  
の混乱はわれわれに精神の安らぎさえ保証しない。

まさに不安に満たされた世界、あるいは「世紀末の時代」と呼ばれて  
も仕方がないであろう。

(2) ところが、いつの世にも時代精神 *Zeitgeist* をもっとも敏感に受け  
とめるといわれてきた青年、とくに学生は、こういう事態や情勢、ある  
いは風潮を、どう認知し体感しているのでしょうか。端的にいえば彼ら  
自身はどれほど「不安」なるものを実感しているのでしょうか。

一方マスコミなどの伝えるところでは、現代の若者は、無感動、しら  
け、あるいは現実的、刹那的、快樂的、樂天的で深刻に悩まないなどと  
いわれている。果たして実際はどうか。この問題は日本の行く手を考え  
る上でも、実態を十分に調べ、とくに考えてみなければならぬ大きな  
問題であろう。

(3) 不安 *anxiety* とは何か。心理学で不安というのは、恐怖に似た生理  
的变化（緊張・ストレス）を伴う不快な情緒状態である。

## 12 現代女子学生の不安

恐怖と違うところは、比較的軽度で、持続的で、対象が漠然としている点である。

不安の性質としては、①いったんある対象や状況に不安を感じると、それと似た、あるいは関係のある対象へ広がっていく（これを「般化」という）ことと、②不安をもつと、それを取り除くためにさまざまな行動を引き起こし（これを「動機づけ」という）、たまたまある行動が沈静に役立ったとすれば、その行動が定着して習慣化すること（これを「強化」という）、という2つの主なはたらきがある。

(4) 不安研究のこれまでの流れを簡単に記す。何と云っても不安の問題に第一指をそめたのは、精神分析学のフロイト Freud, S. である。彼によれば、不安は自我に対する危険信号であり、自我は不安によって自我防衛機構を発動させる。この考え方は現代の精神力動学に受けつがれ、不安の解釈や不安の診断・治療に役立っている。

しかし不安の客観的・実証的な研究は、パブロフ Pavlov, I. P. やワトソン Watson, J. B. の条件反応学説（古典的条件づけ理論）の出現、さらにハル Hull, C. L. やミラー Miller, N. E. などの強化学習説（道具的条件づけ理論）に依らなければならなかった。

マウラー Mowrer, O. H. は、この2種の条件づけを動物の適応上の二大学習機能として、整理し系統づけ理論化した。いま不安を材料として説明すると、①古典的条件づけでは、危険な対象に関係ある刺激に不安を結びつけて警戒することを学習し、②道具的条件づけでは、その不安を軽減させてくれる行動を定着（学習）するということになる。

これらの実験的研究とともに、実際の不安を測定する方法も工夫された。面接法、生理学的検査、投影法など、いろいろな方法の中でよく用いられるのが質問紙形式の「不安検査」である。

テイラー Taylor, J. A. が、初めて不安の強さを測定するために、1953年に作成したのが「顕在性不安尺度」(Manifest Anxiety Scale,

略して MAS<sup>(文献1)</sup>である。

これはずい分実験その他に利用された。<sup>(文献2)</sup>邦訳もあり、本研究でも利用させて頂いた。

ところが最近になって、スピエルバーガー Spielberger, C. D. が一律に不安を測定するというよりも、現在の不安状態と生来の性格としての不安特性とを分けて調べる方が合理的であろうと考え、1970年に「状態不安」と「特性不安」の明確に区別された2つの概念と、その測定法を提出した。この「状態－特性不安理論」に基づいて、状態不安と特性不安の自己報告式<sup>(文献3)</sup>尺度として作成されたのが、STAI (State-Trait Anxiety Inventory) である。

本研究をおこなうに当り、作業をすすめていく便宜上、STAIをSAS (State Anxiety Scale) とTAS (Trait Anxiety Scale) とに分けて実施することとした。

その場合、既に発表されている STAI の日本語訳<sup>(文献4)</sup>を使用させて頂いた。訳者の清水と今栄氏には多大なる謝意を表する。

## 2 問題と目的

(1) 現代の青年学生は、1でも述べたように、「もの怖じしない」「深刻に悩まない」「現実的・行動的」「屈託がない」などといわれる。一方でまた心ある青年は、「物の豊かさの陰に潜む心の貧しさのもたらす未来の不気味さを感じている」などともいわれることがある。

このような問題はどうか考えたらよいのか。それは実際に調べてみるより外はない。

本研究は、現代の青年学生（女子学生に限られたが）が、いかなる対象についてどの程度の不安を抱いているか、できるだけ網羅的に、客観的に、しかも構造的に（表面的なひとつひとつの対象に対する不安の奥底に、どんな底流が潜んでいるか）調べてみたいと思うのである。

#### 14 現代女子学生の不安

また、一種類ではあるが同一検査を過去に実施した資料があるので、その結果と現在の結果とを比較して（不安点が増したか減ったか）調べてみたい。

(2) 次に、不安を測定する心理学的検査（尺度）の問題である。先にも述べたが、不安の程度を測定する技術あるいは道具は、次々と開発され発達してきた。

その主なものは、Taylor の「顕在性不安」尺度、Spielberger の「状態不安」尺度、同じく「特性不安」尺度である。

この3種の尺度を同一被検者に課した場合、どういう相関状況が表われるであろうか。即ち同じく不安を測定しながら、各尺度の共通性と独自性はどのようなものであるか。こういう比較も興味があり、また大切なことである。

さらにこの3種の尺度の実施結果を、現実の不安と照合して調べてみた場合、どの尺度は現実のどういう側面の不安により多く関与しているかということが明らかとなり、いわば各尺度の「妥当性」を検証することになると思われる。

以上のような問題意識のもとで、本研究の目的を具体的に記すならば、それは次の3つである。

①現代の女子学生が抱くさまざまな社会事象（就職、結婚、健康、社会、人生）に対する不安の強度、均衡、相関の実態を調べる。

②その相関状況から因子分析によって、より包括的なより潜在的な、いくつかの「不安因子」を抽出し、できれば各因子を解釈し命名して、もう一度全質問項目の意味を考えてみたい。

③3種の不安測定尺度（SAS, TAS, MAS）の類似性と独自性を、現実不安の各項目との関連において吟味してみたい。この仕事は各尺度の妥当性の検証と特徴の解明ということになるのである。

### 3 方 法

#### (1) 用 具

①SAS (State Anxiety Scale, 状態不安尺度)。これは前述の Spielberger の STAI の中の「状態不安」を検査する部分に当たる。被検者に対しては「調査A」と名づけて課し、4件法で応答させたものである。

②TAS (Trait Anxiety Scale, 特性不安尺度)。これも同様の「特性不安」を検査する部分に当たる。被検者に対しては「調査B」と名づけて与えた (これも4件法)。

③MAS (Manifest Anxiety Scale, 顕在性不安尺度)。これは Taylor の古典的な「不安検査」である。被検者には「調査C」として与えた (2件法)。

④現実不安の調査。これは被検者が現実の各種の事象 (就職, 結婚, 健康, 社会, 人生の5領域) について抱いている不安の程度を20項目 (5件法) に分けて応答させるもので, 本研究者の作成によるもの。被検者には「調査D」と名づけて与えた。次下に今記した順序 (調査A→D) に, 各検査と調査の内容項目を掲げる。(P. 16 以下)

(2) 被検者 北海道武蔵女子短期大学1, 2年学生, 計301名

(3) 実施期日 1989年1月

(4) 実施手続 いずれの検査, 調査も表題に「不安」とか「検査」とかいう字句を用いず, 調査A B C Dとして示し, その順序で応答を求めた。

(5) 各検査・調査ごとに平均不安点 (M) と標準偏差 (SD) を算出し, 4種の検査間の相関表を作成し, 各検査調査間の関連・類似・相違などを吟味した。

(6) 調査Dの結果については, 各項目の得点の相関行列を作り, それを因子分析 (主因子分析法) により, いくつかの因子を抽出し, 各因子の解釈と命名を試み, これを手がかりにして全項目 (20項目) への応答状況を, 改めて総覧してみたい。

## 16 現代女子学生の不安

**表1** 調査A (SAS, 状態不安尺度)

記入前に：心の状態を表現する文章が下に記述してあります。その各文章について、現在、今どの程度感じているか、該当する番号を○でかこんで下さい。あまり考える必要はありませんが、現在の気持を最もよく表現しているものに反応するよう心掛けて下さい。

	全くそう でない	幾分そう である	ほぼそう である	全くそう である
1. 平静である。……………	1	2	3	4
2. 安心している。……………	1	2	3	4
3. 固くなっている。……………	1	2	3	4
4. 後悔している。……………	1	2	3	4
5. ホットしている。……………	1	2	3	4
6. 動転している。……………	1	2	3	4
7. まずいことが起こりそうで心配である。……	1	2	3	4
8. ゆったりした気持である。……………	1	2	3	4
9. 不安である。……………	1	2	3	4
10. 気分がよい。……………	1	2	3	4
11. 自信がある。……………	1	2	3	4
12. ピリピリしている。……………	1	2	3	4
13. イライラしている。……………	1	2	3	4
14. 緊張している。……………	1	2	3	4
15. リラックスしている。……………	1	2	3	4
16. 満足している。……………	1	2	3	4
17. 心配である。……………	1	2	3	4
18. ひどく興奮し、ろうばいしている。……………	1	2	3	4
19. ウキウキしている。……………	1	2	3	4
20. 楽しい。……………	1	2	3	4

表2 調査B (TAS, 特性不安尺度)

記入前に：心の状態を表現する文章が下に記述してあります。その各文章について、ふだん一般どの程度の状態か、該当する番号を○でかこんで下さい。あまり考える必要はありませんが、ふだんの気持ちを最もよく表現しているものに反応するよう心掛けて下さい。

	決して そうでない	たまに そうである	しばしば そうである	いつも そうである
1. たのしい。……………	1	2	3	4
2. 疲れやすい。……………	1	2	3	4
3. 泣きだしたくなる。……………	1	2	3	4
4. ほかの人と同じくらい 幸せであったならと思う。……………	1	2	3	4
5. すぐに決心がつかず迷いやすい。…	1	2	3	4
6. ゆったりした気持である。……………	1	2	3	4
7. 平静・沈着で落ちついている。……………	1	2	3	4
8. 困難なことが かさなると圧倒されてしまう。…	1	2	3	4
9. 実際に大したこともないこと が気になってしかたがない。……………	1	2	3	4
10. 幸せである。……………	1	2	3	4
11. 物事を難しく考える傾向がある。…	1	2	3	4
12. 自信が欠如している。……………	1	2	3	4
13. 安心している。……………	1	2	3	4
14. やっかいなことは 避けて通ろうとする。……………	1	2	3	4
15. 憂うつである。……………	1	2	3	4
16. 満足している。……………	1	2	3	4
17. ささいなことに思いわずらう。……………	1	2	3	4
18. ひどくがっかりしたとき には気分転換ができない。……………	1	2	3	4
19. 物に動じないほうである。……………	1	2	3	4
20. 身近な問題を考えると ひどく緊張し混乱する。……………	1	2	3	4

18 現代女子学生の不安

表3 調査C (MAS, 顕在性不安尺度)

1. 私は疲れやすいということはありません。……………	はい	いいえ
2. 私はときどき腹が気持悪くなることがあります。……………	はい	いいえ
3. 私もしらいらすることがありますが、これは他の人と同じ程度だと思います。……………	はい	いいえ
4. 私は頭が痛くなるということはありません。……………	はい	いいえ
5. 私はよく何かしようとする手ふるえに気がつくことがあります。……………	はい	いいえ
6. 私はぐっすり眠ることができず、ちょっとした音にもすぐ目をさまします。……………	はい	いいえ
7. 私はほとんど顔が赤くなるということはありません。……………	はい	いいえ
8. 私はときどき何か困ったことが起こりはしないかと心配します。……………	はい	いいえ
9. 私はよく顔が赤くなりはしないかと心配します。……………	はい	いいえ
10. 私の手や足のさきはいつでも暖かい。……………	はい	いいえ
11. 私はすずしい日でもすぐ汗をかきます。……………	はい	いいえ
12. 私は何か困ったことがあるとすぐ汗をかきます。……………	はい	いいえ
13. 私は心臓のどききが気になることや、息ぎれがしそうだということはありません。……………	はい	いいえ
14. 私は夜心配のため眠れないことがときどきあります。……………	はい	いいえ
15. 私は胃腸が弱くて困ります。……………	はい	いいえ
16. 私はときどき人に話せないような夢を見ます。……………	はい	いいえ
17. 私は他の人よりも感情を害しやすい方です。……………	はい	いいえ
18. 私はたいていいつでも何かかにかの心配をしています。……………	はい	いいえ
19. 私は他の人のように幸福になりたいと思います。……………	はい	いいえ
20. 私はいつも平静で大がいのことではあわてたり、うろたえたりすることはありません。……………	はい	いいえ
21. 私はものごとにくよくよするたちです。……………	はい	いいえ
22. 私はほとんどいつも幸福です。……………	はい	いいえ
23. 私は待たされるといらいらします。……………	はい	いいえ
24. 私はよく長くすわってられない程気持が落ち着かなくなることがあります。……………	はい	いいえ
25. 私はときどき眠られない程興奮します。……………	はい	いいえ



26. 私はときどき困難にぶつかってもうどうすることもでき  
ないと感じることがある。…………… はい いいえ
27. 私はよく実際には問題にならないような事からについて  
理由のない心配をすることがある。…………… はい いいえ
28. 私は友達などに比べると恐ろしいものが少ない方です。…………… はい いいえ
29. 私は自分に害を与えるはずはないということが解ってい  
ても、ある人間や物事を恐ろしがることがあります。…………… はい いいえ
30. 私は確かに元気がないなときどき感じます。…………… はい いいえ
31. 私は自分を役にたたない人間だと思うことがあります。…………… はい いいえ
32. 私は何でもものごとをむづかしく考える方です。…………… はい いいえ
33. 私はこまかいことが気になるたちです。…………… はい いいえ
34. 私はときどき人生というものは苦しいものだと感じます。…………… はい いいえ
35. 私という人間はとりえのない人間だときどき思います。…………… はい いいえ
36. 私は自分というものに全然自信がもてません。…………… はい いいえ
37. 私はときどき自分はもうだめになるのではないかと感  
ずることがあります。…………… はい いいえ
38. 私は困難なことに直面したり、重大な決心をしたりする  
ことを好みません。…………… はい いいえ
39. 私は皆の人から好かれています。…………… はい いいえ
40. 私は気をちらさせないで一つの事にうちこんでするとい  
うことはむづかしい。…………… はい いいえ
41. 私は金の問題や仕事の問題についてくよくよします。…………… はい いいえ
42. 私はよく下痢をします。…………… はい いいえ
43. 私はときどき恐ろしい夢をみてうなされることがあります。…………… はい いいえ
44. 私は内臓のぐあいがどうも正常でないような気がします。…………… はい いいえ
45. 私は便通が不規則です。…………… はい いいえ
46. 私はちょっとしたことに困ってしまい考えがまとま  
らなくなります。…………… はい いいえ
47. 私はときどき声をあげて泣きたくなるような気持にな  
ります。…………… はい いいえ
48. 私は自分というものがかなり信頼できるものだと思っ  
ています。…………… はい いいえ
49. 私はちょっと困難なことがあるとすぐものごとを悲観  
的に考えがちです。…………… はい いいえ
50. 私はいつも将来に対して明るい希望をもっています。…………… はい いいえ

20 現代女子学生の不安

表4 調査D (現実不安の調査)

	全然不安でない	少し不安	中くらい不安	大分不安	非常に不安
<b>I. 就職について</b> (私は目下就職は、未定・進行中・内定です)					
1. いいところへ就職できるかどうか不安です。.....	0	1	2	3	4
2. 就職しても自分の能力や性格を考えると将来うまくやっけていけるか不安です。.....	0	1	2	3	4
3. 人間関係などで職場にうまく適応していけるかどうか不安です。.....	0	1	2	3	4
4. 家庭か職業か、あるいはその両立か、将来のことを考えると不安です。.....	0	1	2	3	4
<b>II. 結婚について</b>					
1. 自分は異性からどう見られているか不安です。.....	0	1	2	3	4
2. よい結婚相手にめぐりあえるかどうか不安です。.....	0	1	2	3	4
3. よい相手に出合っても結婚できるかどうか不安です。.....	0	1	2	3	4
4. 結婚したとしてもよい結婚生活を継続できるかどうか不安です。.....	0	1	2	3	4
<b>III. 健康について</b>					
1. いつ不測の事故や災害に出会うかわからない。それを考えると不安です。.....	0	1	2	3	4
2. 今は丈夫でもいつ病気にかかるかわからない。それを思うと不安です。.....	0	1	2	3	4
3. 「ガン」にならないかと思うと不安です。.....	0	1	2	3	4
4. 人間いつかは必ず死ななければならぬ。それを思うと不安です。.....	0	1	2	3	4
<b>IV. 社会について</b>					
1. いつ戦争が起きるかわからない。それを思うと不安です。.....	0	1	2	3	4
2. 地球は汚染され飢餓や疫病がひろがりつつある。それを考えると不安です。.....	0	1	2	3	4
3. この豊かな生活がいつまで続くか不安です。.....	0	1	2	3	4
4. これから高齢者時代になります。それを考えると不安です。.....	0	1	2	3	4
<b>V. 人生について</b>					
1. 悩みやストレスでノイローゼになりはしないか不安です。.....	0	1	2	3	4
2. 異常な科学技術の進歩によって人類の将来はどうなるか不安です。.....	0	1	2	3	4
3. 人間には運命というものがある。それを考えると不安です。.....	0	1	2	3	4
4. いろいろ考えると全体として漠然たる不安におそわれます。.....	0	1	2	3	4

#### 4 結 果

上に述べた3種類の検査および1種類の調査で明らかになったことを、以下順を追って述べることとする。

(1) SAS (状態不安尺度)による不安得点。平均値は42.27,標準偏差は9.91で、可能な最大の不安得点は80点である。従ってこの場合の状態不安は、非常に不安が高いということでもなく、中位的な状態にあるものと考えられる。SASの各項目は状況により喚起される不安を敏感に反映するものと考えられるのだが、平均値から考えると、女子学生たちは豊かな日常生活に、あまり不安感をもっていないように思われる。得点範囲は最小値20.0,最大値69.0でこの範囲に分散していた。

(2) TAS (特性不安尺度)による不安得点。平均値は44.58,標準偏差は9.06である。可能な最大得点はSAS同様80点である。

TASは比較的状况に左右されることが少なく、主にパーソナリティ特性としての不安で、ことに過去の経験を反映するものだという観点からみれば、平均値から考えると、不安傾向をふくんだ過去の経験もあまりなかったのだろうと思われる。

最小値は21.0,最大値は77.0で、この範囲に分散していた。

(3) MAS (顕在性不安尺度)による不安得点。平均値は19.42,標準偏差は8.73である。MASの可能な最大の不安点は50点であるが、これを(文献2,前出)1955年~1956年当時に実施した同じ検査の結果と比較すると、表5の通りであって、今回の平均値が著しく低いことがわかる。

表5 MASの平均得点の比較

検査年度	N	M	SD
1955年	147	23.36	9.93
1956年	271	23.63	8.94
1989年	286	19.42	8.73

## 22 現代女子学生の不安

この結果からみる限りにおいては、現代の学生は25年程前の学生と比べて、不安が少ない（弱い、低い）とすることができる。

### (4) 現実不安の質問（調査 D）

この質問項目の内容（表 4）は、女子学生が関心をもっていると思われるものを選択し、それを 5 領域に分類し、1 領域に 4 項目の質問を設定したもので、その結果は以下述べる通りである。

①調査 D も可能な最大の不安点は 80 点で、全被検者の結果は平均値は 24.52、標準偏差は 11.81 で、最小値は 0 点、最大値は 64 点の範囲に分散していた。

平均値から推定する限り、女子学生の現実の不安は大変低いといえるのではないかと。

②また現実不安の 5 領域（就職・結婚・健康・社会・人生）ごとの不安反応の状況は表 6 の通りであった（各領域とも可能な最大の不安得点は 16 点）。

表 6 各領域の平均値

領 域	平均値	標準偏差
調査 D I（就職）	5.86	3.43
II（結婚）	6.02	3.72
III（健康）	3.71	3.13
IV（社会）	5.25	3.34
V（人生）	3.67	2.97

表 6 でわかるように、不安反応が大きかった順でいうと、結婚→就職→社会→健康→人生で、具体的現実的な対象ほど高いといえる。

健康については、現代医学の進歩に頼りきっているのかも知れない。

③現実不安の質問 20 項目間の相関係数、190 箇所を計算し、相関行列のマ

トリックスを作成した。相関係数の算出は、298名分の得点を用いて計算した。それが表7である。

これをみると、0.018から0.695の間にひろがっていて、その値は余り大きなものではない。

このことは、各項目とも独立した内容であること、即ち同じく現実不安を対象としながら、それぞれ独自の面をとりあげているとあってよい。つまりは、多面的で多岐多様な反応を示しているということになる。

④しかし現実の不安において、将来的なことがらに関連したこととか、人生の問題、自分自身の一生に係わる問題などには、まじめに考える姿を反映し、そこに不安をもっているように思われる。はじめに記したように、現代の若者像が無感動、刹那的、楽天的という言葉で表現される一面はあるとしても、心の奥底には、生真面目（きまじめ）なものを持っていると思われる。

表7 20項目間の相関行列

VARIABLE	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1																				
2	0.377																			
3	0.216	0.681																		
4	0.149	0.343	0.346																	
5	0.183	0.419	0.401	0.282																
6	0.159	0.322	0.336	0.174	0.557															
7	0.159	0.274	0.293	0.269	0.436	0.664														
8	0.146	0.324	0.385	0.342	0.409	0.536	0.571													
9	0.083	0.092	0.165	0.146	0.210	0.175	0.193	0.357												
10	0.119	0.110	0.153	0.103	0.252	0.233	0.225	0.358	0.695											
11	0.177	0.215	0.216	0.073	0.367	0.294	0.248	0.314	0.452	0.622										
12	0.189	0.152	0.121	0.116	0.168	0.203	0.168	0.188	0.310	0.383	0.388									
13	0.049	5.9E-03	0.032	0.018	0.158	0.104	0.079	0.166	0.352	0.368	0.286	0.188								
14	0.044	0.157	0.161	-6.3E-03	0.216	0.161	0.098	0.157	0.347	0.371	0.315	0.222	0.636							
15	0.123	0.201	0.202	0.158	0.213	0.242	0.235	0.210	0.337	0.372	0.326	0.243	0.515	0.611						
16	0.129	0.205	0.160	0.176	0.177	0.202	0.195	0.208	0.281	0.214	0.221	0.175	0.354	0.362	0.448					
17	0.173	0.304	0.359	0.257	0.285	0.201	0.248	0.307	0.213	0.301	0.271	0.105	0.127	0.151	0.278	0.195				
18	0.042	0.141	0.154	0.040	0.174	0.153	0.110	0.116	0.218	0.293	0.284	0.229	0.500	0.640	0.525	0.365	0.224			
19	0.215	0.287	0.324	0.209	0.264	0.250	0.318	0.285	0.298	0.316	0.255	0.314	0.114	0.136	0.356	0.319	0.450	0.229		
20	0.142	0.316	0.343	0.226	0.276	0.262	0.214	0.335	0.241	0.229	0.179	0.266	0.244	0.264	0.316	0.378	0.479	0.358	0.521	

(5) 不安を測定した上記3種の尺度、即ち状態不安尺度 (SAS)、特性不安尺度 (TAS)、顕在性不安尺度 (MAS) および現実不安の質問 (調査D) の4種間の相関表 (ピアソン相関係数) は、次に掲げる表8のような結果を得た。

表8 4種の検査及び結果の相関

Scale	SAS	TAS	MAS	D
SAS				
TAS	0.543			
MAS	0.491	0.836		
D	0.261	0.511	0.462	

各尺度は相互に適度な相関を保ちながら、それぞれ特異性をもって各対象別の不安度と独自の関連像を描いている。

即ち、状態不安尺度 (SAS) と特性不安尺度 (TAS) との相関は、.54、顕在性不安尺度 (MAS) と SAS とは.49、MAS と TAS とは.84 となつてかなり高い。

特に古典的な Taylor の MAS が、TAS とほとんど同じものを測っていることになる点興味深い。これは MAS がもともと MMPI (Minnesota multiphasic personality inventory, ミネソタ多面人格目録) の項目から選んで構成されたものであるから、人格特性が主になっている TAS と似てくるのは当然であろう。

また SAS だけはあとの両者と、やや異なつた測り方をしている点などはおもしろい。

現実不安の質問との相関を見ても、MAS が.46、TAS が.51と高いのに対して、SAS は.26と低い。

即ち、現実の不安は、その時その時の「状態」に基づくよりも、一人ひとりのもつ「特性」(性格) に根ざす所が多いといえる。

## (6) 因子分析の結果

① 先に示した相関行列のマトリックスにみられるように、現実不安の値は大きなものではないが、それでも因子分析の結果は4箇の主だった因子が抽出された。

因子とその負荷量は表9の通りである。

表9 不安質問紙の各項目と因子負荷量

番号	不安対象	I	II	III	IV
15	(豊かさ)	.64212	.39181	.21979	.14127
10	(病気)	.63143	.29262	-.47607	-.28065
8	(結婚継続)	.62272	-.32952	-.27129	.18459
20	(漠然たる)	.60763	-.05061	.36564	-.20760
11	(ガソリン)	.60689	.15867	-.41977	-.16466
13	(戦争)	.48539	.60314	.07732	.22759
14	(地球汚染)	.56195	.57120	.18214	.27517
18	(科学技術)	.53353	.48829	.30838	.18795
2	(職業生活)	.52651	-.46645	.31526	-.03813
3	(職場適応)	.54557	-.45359	.25833	-.03279
9	(事故災害)	.57723	.27614	-.40883	-.26706
16	(高齢時代)	.52591	.22003	.28995	.06621
7	(結婚成就)	.55283	-.39193	-.26316	.37995
6	(結婚相手)	.57800	-.36147	-.25419	.46177
19	(運命)	.59590	-.12521	.16021	-.37880
12	(死)	.46006	.13259	-.23465	-.32554
17	(ストレス)	.54482	-.17394	.21884	-.30618
1	(就職先)	.31563	-.23813	.10983	-.25346
5	(異性)	.59407	-.32757	-.11756	.27972
4	(家庭か職業か)	.37552	-.39760	.14378	-.08326
		不幸	惨禍	運命	生涯

②抽出された因子の解釈と命名についてふれてみる。

計算の結果抽出された有意味な「因子」は4箇だが、そのうち1箇は散らばりが多く、負荷量も小さいので除外し、3箇の因子を有意味な「因子」としてとり上げた。

そしてそれらの因子が、各項目の中にどの程度関与しているかという、



「因子負荷量」を勘案し、関与の程度の大きいものをまとめてみた（各因子ごと表中の枠で囲んだもの）。

### 第Ⅰ因子

この因子は第15項目（豊かさ）に最も多く負荷され、次に10, 8, 20, 11の各項目にも多く負荷されている。仮に「不幸因子」と命名する。

現在は豊かな生活に満足しているが、将来いつかは貧しい生活になりはしないか、あるいは病気になったり、ガンにかかったりはしないかという、将来の不幸に対する漠然たる不安を指すと思われる。

### 第Ⅱ因子

この因子は第13項目（戦争）、次いで14, 18に多く負荷され、2, 3項目にはマイナスに係わっている。個人の問題よりも人間をとりまく環境問題や先端技術の進歩に対する将来への不安である。

ものごとに対する考え方が広く、視野も広い観点から現代を見つめていると思われ、知的な考え方とも思われ、このまま進めば地球は惨めな状況になるのではないか、という不安。仮にこの因子を「惨禍因子」と名づける。

### 第Ⅲ因子

この因子は第7項目（結婚成就）、第6項目（相手）に大きく負荷されているが、第19項目（運命）にはマイナスの方向に係わっている。「よい相手に出会っても結婚できるかどうか不安」であるという、何となく漠然たる不安感。そのためにはよい結婚相手に出会うことが肝心だが、そういう相手に出会えるだろうかという現実的な問題に直面した不安感である。この世の中は、運・不運ではこぶのだとも考えたりする不安。

結婚は、自分の一生の大問題と考えると、この因子を「生涯因子」と仮に名づけた。

## 28 現代女子学生の不安

以上を要約すると、女子学生の現実不安の底流には、3箇の主要な因子が存在すると考えるのである。

将来不幸に陥るのではないかという「不幸因子」、そして科学技術の異常な進歩が地球を破壊し、人間を惨めな方向におとし入れるのではないか、という「惨禍因子」、もうひとつは自分自身の一生の問題に対する不安、即ち「生涯因子」である。

### (7) 現実不安の5領域と各不安検査との相関。

現実不安の5つの領域（就職・結婚・健康・社会・人生）は、それぞれ4項目から成っている。それぞれの項目に対する不安の程度を加えると、その領域の不安点ができる。

これらと「状態不安」(A)、「特性不安」(B)、および「顕在性不安」(C)との相関係数（ただしこの場合は四分割相関）を出してみると、次のようになった。

表10 5領域の不安点と各検査との相関

	S A S	T A S	M A S	(平均)
就 職	.27	.38	.48	.38
結 婚	.34	.47	.38	.40
健 康	.00	.23	.19	.14
社 会	.05	.23	.18	.15
人 生	.34	.53	.43	.43
(平均)	.20	.37	.33	

これで見ると、3種の不安検査結果と相関のあるのは、人生問題、結婚問題、就職問題に対する不安である。即ちこれらの領域の不安に対しては、不安検査（とくに特性不安尺度と顕在性不安尺度）がある程度、予言力をもつとってよい。

次に、全20項目と3種の不安尺度との4分割相関をも出してみた。煩わしいので係数は省略するが、最も高い数値のものを1～2例示する。人生問題の中の第1項目「悩みやストレスでノイローゼになりはしないか不安です。」が、TASの結果と.57の相関をもち、同じく人生問題の第4項目「いろいろ考えると全体として漠然たる不安におそわれます。」がやはりTASと.54の相関を得ている。

これらの結果を考え合わせると、どうも人生問題に対する不安、いわば実存的不安は、その人の持ち前である性格的な不安傾向と、深く結びついているように思われるのである

## 5 結論と要約

(1) 女子短大生301名に、さまざまな領域（就職・結婚・健康・社会・人生）の社会事象に対する、不安の程度を測る質問紙（各領域4項目ずつで計20項目）に応答させた。

最も不安度の高い領域は「人生」問題であり、次は「就職」「結婚」と続く。全項目間の相関の因子分析から得られた因子は、「不幸因子」「惨禍因子」「生涯因子」の3つであった。

(2) 上の現実の不安度調査といっしょに、3種の心理学的な不安検査を実施した。それは、古典的なTaylorの「顕在性不安尺度（MAS）」と、最近Spielbergerが考案した「状態不安尺度（SAS）」と同じく「特性不安尺度（TAS）」である。この4種のものの相関状況を調べることによって、3種の心理学的不安尺度それぞれの、妥当性・有効性・独自性を明らかにすることができた。

(3) 現実不安の各領域が、性格的な傾向と関連が大きいか、あるいは一時的な不安状況と関連が深いかについても、ある程度明らかにすることができた。

**要約**——。①現代は不安の時代といわれるが、一方青年学生の不安傾向は低いともいわれる。時代感覚に敏感な青年学生は、ほんとうはどうなのか。女子学生301名に現代社会のさまざまな社会事象（就職、結婚、健康、社会、人生）に対する不安の様相・程度・構造を調べるため、20項目の質問紙に応答させ、その結果を因子分析して3箇の不安因子を抽出し、考察を加えた。②一方不安検査として従来より用いられた Taylor の MAS（顕在性不安尺度）と、最近 Spielberger の開発した SAS（状態不安尺度）と TAS（特性不安尺度）の3種の心理学的検査を同時に実施し、上記の現実的な不安調査の結果と照合しつつ、その妥当性・有効性・独自性を検討した。③また、各領域ごとの現実不安が、性格的な傾向（MAS, TAS）と関連が大きいか、あるいはその時点での不安状態（SAS）とより深く関連するかについて、ある程度資料を得ることができた。

### 付記

本研究は1989年度の「日本教育心理学会」第31回総会で発表したものに加筆修正をしたものです。

研究に当ってご指導とご助言を頂いた藤野武教授（本学・北海道教育大学名誉教授）、並びに本研究の因子分析などの手続きなどについてご協力を頂いた、札幌医科大学心理学教室の竹川忠男助教授に心からお礼を申し上げます。

### 参考文献

1. Taylor, J. A. (1953) A personality scale of manifest anxiety. *J. abnorm. soc. Psychology*, **48**, 285-290.
2. 藤野 武・岡路市郎・他 (1956) 知覚の枠組効果と人格特性 北海道学芸大学紀要, **7**, 20-21.
3. 古賀愛人 (1980) 状態不安と特性不安の問題 心理学評論, **23**, 3, 269-292.
4. 清水秀美・今栄国晴 (1981) State-Trait Anxiety Inventory の日本語版(大学生用)の作成 教育心理学研究, **29**, 4, 62-67.